

公益財団法人大河内記念会
令和2年度事業報告書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

当会は、生産のための科学技術の振興を目的として、従来に引き続き、その事業の根幹をなす大河内賞の表彰事業を次のとおり実施した。

1. 表彰事業

(1) 大河内賞贈呈

大河内賞審査委員会(大学教授等20名の委員により構成)は、産業団体、学協会、大学、研究機関等から推薦された大河内賞受賞候補業績について、書類審査、業績内容に関するヒアリングおよび当該業績の製造現場等の実地調査による審査選考を行っているが、令和2年度については、新型コロナウイルス感染の拡大防止に鑑み、受賞候補業績募集・審査及び贈賞の一切を中止とした。

(2) 受賞業績報告書等の発行

第66回(令和元年度)大河内賞受賞業績の技術内容を掲載した「大河内賞受賞業績報告書」を発行して、国内の理工系大学、研究開発機関、学協会、産業団体、企業、賛助会員等に配布した。このほか、大河内記念会の事業活動の内容や関連の産業技術関係記事等を掲載する機関誌「五兆」を発行し、上記報告書同様関係各方面に配布した。

(3) 見学会等

受賞業績に係るフォローアップに関連して、大河内賞受賞者、当会賛助会員等を交えて「生産のための科学技術」に関する見学会等を大河内賞の受賞事業体等の協力を得て開催してきたが、本年度は、新型コロナウイルス感染の拡大防止に鑑み、参加者及び対応者等の健康と安全を第一として見学会等を中止とした。

2. その他

当記念会の表彰事業の充実及び当該事業に係る財政基盤の強化を図るため、従来に引き続き賛助会員の募集等を行った。

以上